

まずは意識改革から!!
介護機器の導入を通して
見えてきたもの

—介護職の負担軽減と
 入居者の活動性の向上—

特別養護老人ホーム めまづホーム
 清 希美
 山田 美恵



背景要因

①介護の重度化
 ・重介護の方の増加、「ケアが大変になってきている…」という職員
 の負担感増。
 ・腰痛、手関節の腱鞘炎、うつ傾向など心身の疲労感を訴える職
 員が多い。

②介護分野の変化
 ・科学的根拠に基づいた介護技術
 ・自立支援を求められる時代に変化してきている
 ・介護機器の開発・普及

↓

- ・介護職の負担感増
- ・入居者の自立支援の視点の希薄

初期の取り組み経過

平成21年7月19日“移動・
 移乗の知識と技術”の勉強
 会に代表者が参加

平成21年9月16日
 介護機器導入
 ・床走行式リフト1台
 ・スカイリフト1台

持ち上げない介護の
 意識共有に取り組む

**職員による意識の差
 介護機器の使用にバラつき**

具体的な取り組み

【第1段階】
 ・アンケートの実施、現在の活用状況の把握と課題の分析

【第2段階】
 ・目的共有の為の勉強会の実施、介護用具・リフトの使用体験

【第3段階】
 ・介護機器を継続して使用していく為の業務時間の調整

【第4段階】
 ・ADL拡大の為、個別にアセスメントを行う。
 入居者のリフト計画書を作成し、ケアプランに導入する。

【第1段階】
アンケートの実施・課題の抽出

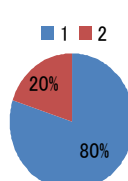
平成21年3月 職場環境改善のアンケートより

・業務に関わることで、腰痛を感じていますか？

1. はい……80%
 2. いいえ……20%

・腰痛を感じる介護場面は？

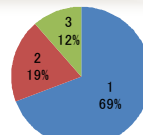
- ・オムツ交換
- ・座位排泄の介助
- ・ベッド上での引き上げ介助
- ・入浴介助
- ・移乗介助



平成22年5月実施 介護職28名回収率100%

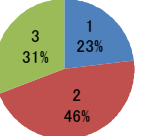
1、リフトの活用状況

1. 常に活用……69. 2%
 2. 時々活用……19. 3%
 3. 活用していない……11. 5%



2、スライドボードの活用状況

1. 常に活用……23. 1%
 2. 時々活用……46. 2%
 3. 活用していない……30. 7%



3、介護機器の活用、活用していない理由

[活用理由]

- ・腰痛等、身体の負担軽減のため
- ・業務として、組み込まれているため
- ・活用しているが、支度が面倒
- ・入居者の安全・安楽のため

[活用していない理由]

- ・時間に追われる
- ・支度が面倒
- ・使用したことがない
- ・つい、慣れた方法で移乗してしまう

時間優先志向の傾向が強い

【第2段階】勉強会の実施、リフト体験

・時間の調整を行い、全職員が勉強会・介護機器・リフトの体験をすることができた。



いざえもんでの上方移動

今までは..



いざえもんを使用すると..

可変スライドボード

今までは..



可変スライドボードを使用すると..

スカイリフトでの移乗方法

今までは..



スカイリフトを使用すると..

床走行式リフト移乗介助

今までは..



床走行式リフトを使用すると..

【第3段階】

介護機器を継続して 使用していくための時間調整

[現在の介護機器の状況]

- ・床走行式リフト……………2台
- ・スカイリフト……………2台
- ・可変スライドボード……………2枚
- ・いざえもん…Mサイズ…17枚
…Lサイズ…2枚

限られた介護機器を、多くの入居者に使用できるようにするために…

業務時間の調整

リフト使用のスケジュール表

借りに行く時間(担当)		返却時間(担当)
朝 AM 7:20分頃 (夜勤者)	○機組床(ハーネスとのみ) ↓ 8:20頃 ○機組床 (夜勤者と早番)	8:30分まで (早番)
夕 PM 16時すぎ (遅番)	16:45 ○機組床(ハーネスとのみ) ↓ 18:10 ○機組床 (遅番と夜勤者)	終了後、 すぐに返却 (遅番)

【第4段階】

- ①ADL拡大のための個別アセスメント
- ②入居者のリフト実施計画書の作成
- ③ケアプランに導入、環境整備

すべての入居者に使用可でなく個別アセスメントし、ニーズに照らし、本人の同意があつて可能となる。

- ・A様:ADL拡大に結びついた事例
- ・B様:ADL拡大に結びつかなかつた事例

A様アセスメント・実施計画・成果

アセスメント	ニーズ	長期目標	内容	期間
<ul style="list-style-type: none"> ・骨粗鬆症 ・右大腿部切断 ・体重増加 ・移乗介助時、リスクが高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・原意があり、トイレでの座位排泄の希望あり ・「夜間、PTイレで排泄したい」 ・職員としては、安全な移乗をしたい 	床走行式リフトを使用して、昼夜トイレでの座位排泄ができる	[ステップ1] 機組に慣れる [ステップ2] 日中PTイレ介助時に使用	平成21年10月 ～平成22年2月
実施状況	利用者の様子	環境整備、入居者への配慮	ケアプランに導入まで	
[ステップ1、2] 職員2人介助でリフトを使用し、PTイレ介助	始めは… 「痛い痛い…」 「抱えてやって…」 2～3ヶ月後 「慣れました」 「苦痛はありません」	<ul style="list-style-type: none"> ・サポースリングの変更 ・PTイレの設置場所の検討 ・入居者への安心した声掛け ・リフトの上昇時、必ず隣で付き添う 	リフトの使用時間を決め、業務に取り入れ。 入居者がリフトに慣れ、ケアプランに導入となる ↓ 夜間、オムツの使用から、リフトを使用してのPTイレ介助へ	

A様床走行式リフトによる移乗介助



ベッドからPTイレに、車椅子への移乗に使用しています



B様アセスメント・実施計画・評価

アセスメント	ニーズ	長期目標	内容	期間
<ul style="list-style-type: none"> ・全盲 ・2人介助でトイレ介助を行っているが、立位保持が、数秒間で、本人が不安定になりやすい ・両変形性膝関節症 ・円背 	<ul style="list-style-type: none"> ・「トイレでの排泄がしたい」 	スカイリフトの使用で、職員1人介助でトイレでの排泄介助が安全に維持できる	[ステップ1] 本人、職員が機組に慣れ、立位保持訓練として使用 [ステップ2] 日中のトイレ介助時、職員2人で行う	平成21年9月～2週間 平成21年10月～平成22年2月
実施状況	利用者の意見、様子	環境整備、入居者への配慮	ケアプランに導入まで	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士で1週間、ポイント・注意点を考えながら、リフトになれるための体験を行う ・2週目から、本人を交えて2人介助でのリフト体験を行った 	[1週目] ・協力的だが、「もう嫌だ!」 ・「痛い痛い!! 怖い!」 ・「もう、終わりにしてちょうだい」 [2週目] ・「まだやるの?」 ・「もう、辞めてください」 2週間経過するが、本人の訴え変わらず	<ul style="list-style-type: none"> ・スカイリフトの乗客の人に、再度使用状況を確認してもらう。 本人が不安になりやすいため、安心できる声かけを続けた 	円背で、前傾姿勢もあり、本人の拒否も強いため、リフトを使用してのトイレ介助には結びつかず。	

B様スカイリフトによる移乗介助



今後の課題

4段階までの取り組みを通して・・

目的意識の共有がさらに図られたが、必要性を認識したとしても実践できていない現実が残されている。

今後の課題として、起こっている課題解決を図る必要がある。

- ① **移乗・移動介助の個別マニュアル化**
- ② **物品の充足(リフトの台数、シートの数等)**
- ③ **業務の効率化による時間の確保**